



家族で話しあっておきたい！

もしもに備えて「警戒レベル」を確認しましょう



近年、日本各地で台風や大雨などによる自然災害が増加傾向にあるのは、地球温暖化が影響している可能性があるといわれています。エコな暮らしは地球温暖化を軽減し、減災につながるという考え方もあります。大規模な災害が起こらないよう、家庭でできる省エネ活動やCO2削減など、いま私たちができることは何かを考えることはとても大切です。防災意識を持つことで、エコについても考えるきっかけになるといいですね。

今回は台風や集中豪雨といった非常時に的確に避難行動ができるようにするための「警戒レベル」についてご紹介します。

👉 警戒レベルを確認しましょう！

集中豪雨などによって、水害や土砂災害などの災害が発生するおそれがあるとき、どの情報をもとに、どのタイミングで避難をすればよいか迷うことも想定できますね。政府は2019年3月に「避難勧告等に関するガイドライン」を改定し、「警戒レベル」を新たに決めました。住民は「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自らの判断で避難行動をとるとの方針が示されています。この方針に沿って自治体や気象庁等から発表される防災情報を用いて住民がとるべき行動を直感的に理解しやすくなるよう、5段階の警戒レベルを明記して防災情報が提供されることとなりました。

5段階の警戒レベルと防災気象情報

警戒レベル	住民が取るべき行動	市町村の対応	気象庁等の情報		
5	災害がすでに発生しており命を守るための最善の行動をとる	災害発生情報	大雨特別警報		氾濫発生情報
4	速やかに避難	避難指示（緊急） 避難勧告	土砂災害警戒情報	極めて危険 非常に危険	氾濫危険情報
3	避難準備が整い次第、避難開始 高齢者等は速やかに避難	避難準備・ 高齢者等避難開始	大雨警報 洪水警報	警戒（警報級）	氾濫警戒情報
2	ハザードマップ等で避難行動を確認		大雨注意報 洪水注意報（注意報級）	注意	氾濫注意情報
1	災害への心構えを高める		早期注意情報 警報級の可能性		

引用：気象庁「防災気象情報と警戒レベルとの対応について」

参考：首相官邸ホームページ「防災気象情報と警戒レベル」

いざという時に慌てないために、自治体が発表する防災気象情報や「避難勧告」などの避難情報をどのように入手するかを確認しておきましょう。また、自宅や学校・勤務先の近くなどにある避難場所や、水害・土砂災害が起こりやすい場所などを家族で確認しておくことも大切です。

